

日本建築学会近畿支部（企画・材料・施工部会）、元気な生ネットワーク（GNN）共催
シンポジウム「暑中コンクリート工事における対策と取組みの現状」

<ご質問・ご意見・ご感想>

質問(1)

役所、自治体などの参加者は多いのでしょうか？

土木学会の動きはわからないのですが、全国的に土木学会も巻き込んでできないものなのでしょうか？
35度を超えるコンクリートが暑中対策をとれば受け入れられるメドはあるのでしょうか？

A 1：（参加者内訳は支部確認）

実際に監理の承認を得た作業所では、コンクリート温度が35℃を超えた場合でも受け入れています。

質問(2)

暑中コンクリートに対する問題点はありすぎて、冬にコンクリート打ちが望ましいとの提言もあるし、
クラックも考えると夏場は避けた方が良いのではとの認識でした。

直射日光を避ける現場対策（例えば大林組の全天候型でない無理？）が避暑しかないが、難しいと
いうものかな！です。

将来的にクーラー付生コン車の時代が来るでしょうか。

A 2：なかなか難しいことと思います。

以上

ご意見・ご感想

0.1

さまざまな条件の違いによるフレッシュの実験やドラム内のコンクリート湿度の変化など、貴重な実験データの収集お疲れ様でした。この膨大なデータが役所などに認められ、早く各仕様書に 35 度を超えるコンクリートが暑中対策をしたものは受入れられるように載せてもらえるよう頑張ってください。

0.2

GNN の映像が良かったです。GNN の存在を知らなかったので知れてよかったです。ドラムカバーに思ってた以上に効果がないのは驚いた。事有意義なシンポジウムになりました。

0.3

対策マニュアルに基づく事業主へのアプローチとして、実例と問題を実運用に即して、説明していただければと思います。

0.4

こういう対策、取り組みをされているのは知らなかったので勉強になりました。

0.5

非常に多くの生コン関係者の方々が力を合わせて、なかなか簡単にはできない実験や勉強会をしたりと、熱いパワーを感じます。私は販売店の立場ですので、特に技術的な部分は技術者の方々の知識を享受して、日々の業務にあたっています。是非とも活発な活動を展開いただいて生コンメーカーとして、日々向上していただけると嬉しい限りです。頑張っていたいただきたいと思います。

0.6

総評のデータをもらいたい。

0.7

最近の夏期は 40 度を超える地区もよくニュースに出たりしています。全国的にはよく見直していけば良いかと思います。ルールも現場の実情に合わせて変えていけばいいと思います。

0.8

コンクリートの様々な問題に対して、化学混和剤が果たせる役割は大きいと思います。解決したい課題、問題について、大きいこと、小さいこと、潜在、顕在含めて整理されておりますでしょうか？

0.9

暑中コンクリート対策マニュアルというものを初めて知りました。生コン側の対策と車両側の対策との両輪で取り組む重要性を感じました。

0.10

ありがとうございました。
日本語が良いかな

以上